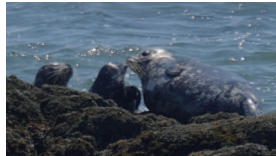




知床ネイチャーキャンパス (SNC) オンライン
ワイルドライフマネジメントシリーズ 希少種の保護管理

VII 希少種のない未来へ



【講師プロフィール】



中村浩志 (なかむら ひろし)
1947 年長野県生まれ。信州大学教育学部卒業。京都大学大学院博士課程修了。理学博士。信州大学教育学部助手、助教授を経て 1992 年より教授。専門は鳥類生態学。主な研究はカッコウの托卵に関する研究、ライチョウの生態に関する研究。日本鳥学会元会長。2012 年に信州大学を退職。現在、信州大学名誉教授・一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所代表理事。退職後の現在もライチョウの研究と保護活動に従事。



須藤明子 (すどう あきこ)
株式会社イーグレット・オフィス専務取締役。日本イヌワシ研究会会長。大阪府立大学大学院農学研究科博士課程修了。エゾシカ研究で博士(獣医学)。野生動物と人との軋轢軽減をテーマに、イヌワシの生息地保全やカワウの個体数管理に携わり、行政・研究者・地域をつなぐ実践的なワイルドライフマネジメントに取り組んでいる。



永田尚志 (ながた ひさし)
鹿児島県生まれ。九州大学理学研究科修了。ウチヤマセンニューの生活史戦略の研究で理学博士を取得。1991 年から国立環境研究所でマレーシアの熱帯雨林鳥類群集や利根川流域の希少鳥類の研究に従事し、2007 年よりトキの野生復帰の研究に携わる。2009 年に新潟大学へ異動しトキの再導入生物学の研究に携わり、2025 年 3 月に定年を迎え新潟大学名誉教授を拝命。



出島誠一 (でじま せいいち)
公益財団法人日本自然保護協会特任部長。群馬県みなかみ町の国有林を協働管理する「赤谷プロジェクト」担当。人工林の自然林復元やイヌワシ保全、地域づくりや環境教育を推進。宮城県・長野県のイヌワシ、四国のツキノワグマ、国際サンバサミット運営等、絶滅危惧種の保全と地域づくりを推進。林野庁林政審議会委員、東北森林管理局保護林管理委員会委員等。

【ご受講前に読んでいただきたい書籍】



『**甦れ！ 神の鳥ライチョウ**』

著者：中村浩志 発行：山と溪谷社
定価：1800円＋税 発売：2025年9月1日

ライチョウが甦った山を
歩ける喜び。
奇跡は「祈る」のではなく
「つくる」ものだと
胸が熱くなりました。

漫画家・鈴木ともこ



【ご受講前に目を通していただきたい資料】

①環境省レッドデータブック ⇒

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/>



②環境省_希少な野生動植物の保全_トキ ⇒

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/toki.html>



③環境省モニタリングサイト1000 ⇒

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/>



【知床自然アカデミーと知床ネイチャーキャンパス (SNC) について】

人身事故や農林水産業被害、生態系への悪影響など、野生動物による様々な問題が全国各地で噴出。その保護管理に携わる都道府県や市区町村の担当者は、十分な支援が得られず孤軍奮闘しています。多くの地域が専門的知識や経験を持つ人材(ワイルドライフマネジャー)を必要としています。当財団はこうした事態を予見した知床の有志が中心となり、専門的人材養成を行う高等教育機関をつくる「知床自然大学院大学設立財団」として 2013 年に発足。世界自然遺産知床は専門教育を行うための最適なフィールドで、科学的野生生物保護管理の先進地なのです。2016 年から始まった知床ネイチャーキャンパスはこの地の利を生かし、ワイルドライフマネジメントの第一線で活躍されている専門家・大学教員・実務者が講師を務め、講義・現地実習・グループワークなどで構成する教育プログラムです。2025 年 4 月には名称を変更し公益財団法人知床自然アカデミーとして新たなスタートを切りました。知床ネイチャーキャンパスに加え、新たなオンライン講座として「実践 野生動物管理学」「希少種の保護管理」を実施。今後さらに充実した教育プログラムを提供して参ります。

